

お知らせ**チューター**

曜日	時間	担当	部屋
月	12:30 ~ 14:30	前	1号館 615
月	12:30 ~ 13:30	郷原	1号館 539
水	12:30 ~ 13:30	田中	1号館 530
木	12:30 ~ 13:30	前	1号館 615
金	15:10 ~ 16:40	近藤	1号館 541

予定

- 秋のプチテスト 11/15 (予定). 配点 15 点
- 冬のプチテスト 12/20 (予定). 配点 25 点

3.6 先週の quiz の略解と復習

1.

21

$$x(t) = \frac{1}{2}t^2, \quad y(t) = \frac{1}{12}t^4 + 1, \quad z(t) = 0. \quad (35)$$

軌跡とは, (x, y) 平面上の曲線で, それにそって物体が運動したもののこと. それを表わす x, y の式を求めるには, $x = x(t)$ と $y = y(t)$ から t を消去すればよい.

$$y = \frac{1}{3}x^2 + 1. \quad (36)$$

2. 注意: $\vec{F} = (0, 0, -mg)$ は運動方程式ではない

運動方程式は

$$m \frac{d^2x}{dt^2}(t) = 0, \quad m \frac{d^2y}{dt^2}(t) = 0, \quad m \frac{d^2z}{dt^2}(t) = -mg. \quad (37)$$

初期条件は

$$x(0) = y(0) = 0, \quad z(0) = h, \quad (38)$$

$$\frac{dx}{dt}(0) = v_0 \cos \theta, \quad \frac{dy}{dt}(0) = 0, \quad \frac{dz}{dt}(0) = v_0 \sin \theta. \quad (39)$$

4 変数分離型微分方程式

4.1 空気抵抗のある場合の運動

佐本 8.1.1

空気抵抗だけを受ける, 1次元の運動を考えよう. たとえば, エアホッケーのパックの運動.

物体の受ける **空気抵抗** は, 向きは速度 $v(t) = \frac{dx}{dt}(t)$ と反対向き, 大きさは速さ $|v(t)| = \left| \frac{dx}{dt}(t) \right|$ に比例.

$$\text{空気抵抗の力 } F = -k \times v(t) = -k \frac{dx}{dt}(t) \quad (k \text{ は正の比例定数}) \quad (40)$$

質量を m とすると運動方程式は,

$$m \frac{d^2x}{dt^2}(t) = -k \frac{dx}{dt}(t) \quad (41)$$

1 階微分で書こう. $v(t) = \frac{dx}{dt}(t)$ なので,

$$\boxed{\frac{dv}{dt}(t) = -\frac{k}{m}v(t).} \quad (42)$$

しばらくこのタイプの微分方程式の解を考えよう. 微分すると自分の $-k/m$ 倍になる関数って何?

$$v(t) = \boxed{Ce^{-\frac{k}{m}t}. \quad C : \text{積分定数}} \quad (43)$$

4.2 変数分離型微分方程式の解き方

例題 5 次の性質を満たす関数 $x(t)$ を求めよう.

$$\frac{dx}{dt}(t) = 2x(t), \quad \text{初期条件 } x(0) = 4. \quad (44)$$

(文字 v を x に変えましたが, 深い意味はありません).

間違いの例 1. 両辺を ‘積分’ して,

$$x = x^2 + C. \text{よって } x = \frac{-1 + \sqrt{1^2 - 4C}}{2}. \quad (45)$$

あれっ, x って t の関数 $x(t)$ じゃなかったの?

間違った点: **23** 左辺は t で, 右辺は x で積分してしまった

両辺を t で積分する (両辺に $\int \cdots dt$ をつける) ならよい.

間違いの例 2. 両辺を t で積分して,

$$x(t) = \int 2x(t)dt + C. \quad (46)$$

正しくない点: **24 右辺に未知関数 $x(t)$ が残ってるよ.**

2 次方程式 $x^2 + 2x + 1 = 0$ の解を $x = -\frac{1}{2}(x^2 + 1)$ と答えるようなもの.

正しい解き方の例

$$\frac{dx}{dt}(t) = 2x(t) \quad (47)$$

まず $x(t)$ を左辺に集める. 今の式には t はないが, あれば右辺に集める.

以下の例題を参照.

$$\frac{1}{x(t)} \frac{dx}{dt}(t) = 2 \quad (48)$$

両辺を t で積分

$$\int \frac{1}{x(t)} \frac{dx}{dt}(t) dt = \int 2 dt \quad (49)$$

ここで,

$$\text{右辺} = \int 2 dt = 2t + C_1. \quad (50)$$

一方, 左辺で変数変換. 変数を t から $s = x(t)$ に変えて置換積分.

$$ds = \frac{ds}{dt} dt = \frac{dx}{dt}(t) dt \quad (51)$$

なので,

$$\text{左辺} = \int \frac{1}{s} ds = \log |s| + C' = \log |x(t)| + C_2. \quad (52)$$

よって,

$$\log |x(t)| = 2t + C' (= 2t + C_1 - C_2) \quad (53)$$

両辺の exp をとって

$$e^{\log |x(t)|} = e^{2t+C'} \quad (54)$$

$$|x(t)| = e^{2t} e^{C'} \quad (55)$$

$$x(t) = \pm e^{C'} e^{2t} \quad (56)$$

$\pm e^{C'}$ は任意の実数値をとれる. これを積分定数 C とおく.

$$x(t) = C e^{2t} \quad (57)$$

初期条件 $x(0) = 4$ より, $C = 4$

$$x(t) = 4e^{2t} \quad (58)$$

これが答え. 必ず検算しよう.

覚え方 (この科目の試験ではこのやり方でいい)

$$\frac{dx}{dt}(t) = 2x(t) \quad (59)$$

$\frac{dx}{dt}$ を分数であるかのように考え、左辺に x , 右辺に t をまとめるように通分して

$$\frac{dx}{x} = 2dt \quad (60)$$

²⁵(このとき dx, dt はひとかたまりと思う). 両辺に \int を追加して,

$$\int \frac{dx}{x} = \int 2dt + C' \quad (61)$$

上で見た解き方は,

$$\frac{dx}{dt}(t) = f(x)g(t) \quad (62)$$

のような形 (**変数分離形**) のときに使える.

いままでやってきた微分方程式も, 実は変数分離形と思える. 当面, すべての微分方程式はこの方法で解くと考えよう.

例. 落体の運動

運動方程式は,

$$m \frac{dv}{dt}(t) = -mg \quad (63)$$

これは変数分離形 ($f(x) = 1, g(t) = -mg$ などと思える). 両辺に dt をかけて

$$dv = -g dt \quad (64)$$

両辺に \int をつけて

$$\int 1 \, dv = \int (-g) \, dt + C \quad (C \text{ は積分定数}) \quad (65)$$

$$v(t) = -gt + C \quad (66)$$

例題 6

$$\frac{dx}{dt}(t) = \frac{t}{x(t)}, \quad x(0) = 2. \quad (67)$$

を解こう

4.3 今週の quiz

次の微分方程式を, それぞれ, 初期条件のもとで解こう.

$$\frac{dx}{dt}(t) = x(t), \quad x(0) = 2. \quad (68)$$

$$\frac{dx}{dt}(t) = -2x(t), \quad x(0) = 2. \quad (69)$$

$$\frac{dx}{dt}(t) = -x(t)^2, \quad x(0) = 2. \quad (70)$$

$$\frac{dx}{dt}(t) = -1 - x(t), \quad x(0) = 2. \quad (71)$$

$$\frac{dx}{dt}(t) = t \cdot x(t), \quad x(0) = 2. \quad (72)$$